

学校評価アンケート集計結果

相馬支援学校長

1 令和元年度（平成31年度） 重点目標

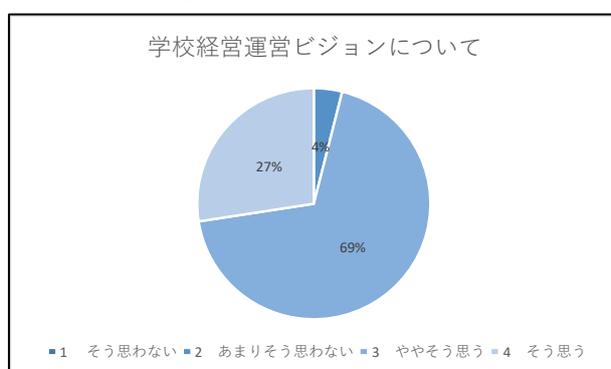
児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえた学習を工夫し、習得した知識や技能、各教科等における見方、考え方を活用できるように授業を展開することで、多様な場面に対応できる思考力、判断力、表現力の育成と般化をめざす。

2 学校経営について

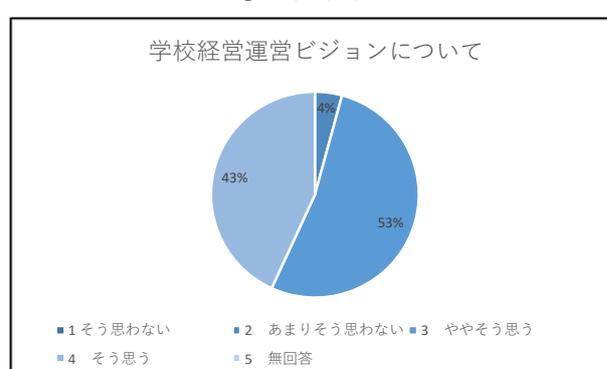
(1) 学校経営運営ビジョンについて

- ① 教員：学校経営・運営ビジョン、教育目標、教育活動を理解し、指導支援を行っていますか。
- ② 保護者：学校は学校経営・運営ビジョン、教育目標、教育活動を分かりやすく伝えていきますか。

① 教員



② 保護者



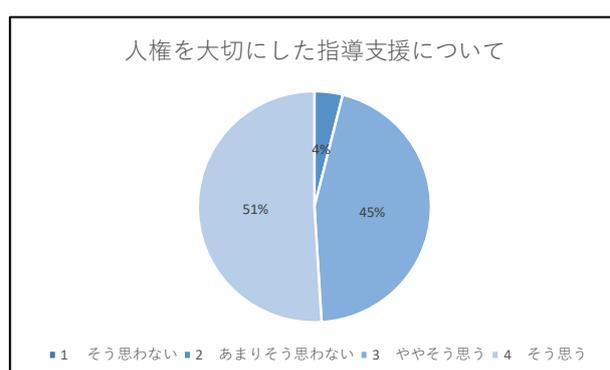
<分析>

教員、保護者とも90%以上が3、4と評価している。教職員については、職員会議等で学校経営・運営ビジョンの説明については、折に触れて説明しているが、今後とも学校経営運営ビジョンの理解を促していきたい。保護者についても、説明の機会が限られているので、より分かりやすい説明と広報活動をしていきたい。

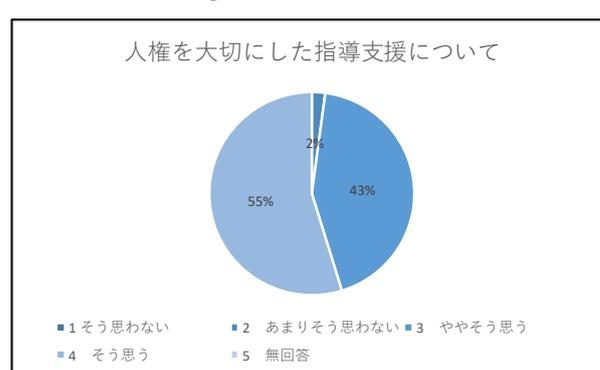
(2) 人権を大切にした指導支援について

- ① 教員：教職員、保護者、関係機関と連携し、人権を大切にした指導支援を行っていますか。
- ② 保護者：学校は、教職員、保護者、関係機関と連携し、人権を大切にした指導支援を行っていますか。

① 教員



② 保護者



＜分析＞

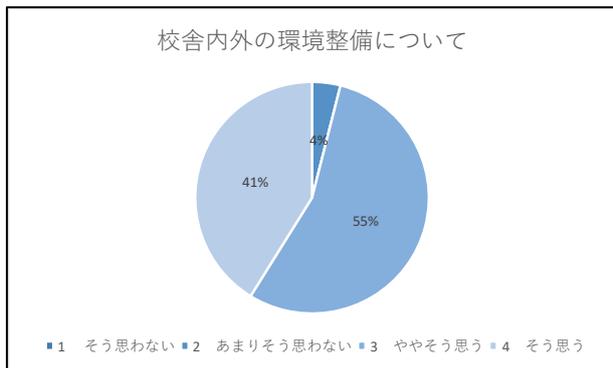
教員、保護者とも3、4と評価する割合は同じような割合であり、一定の評価を得ている。教員の自由記述では、人権意識を大切にするために細かい言葉遣いや態度等に言及している教員もいた。これは、教員自身が人権意識をこれまで以上に大切にしている結果ではないかと考える。今後も、このように人権意識を高めていきたいと考える。

3 安心・安全について

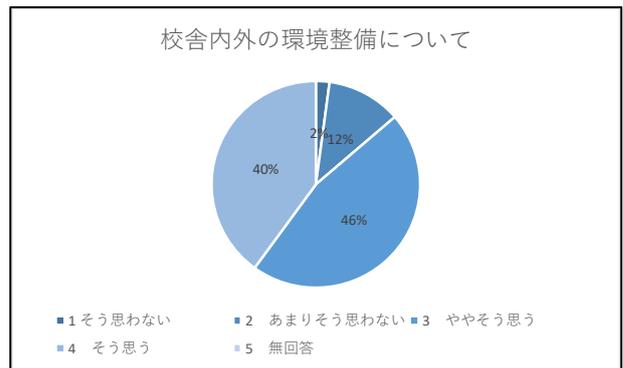
(1) 校舎内外の環境整備について

- ① 教員：校舎内外、教室等の環境整備に努めていますか。
- ② 保護者：学校は、校舎内外、教室等の環境整備に努めていますか。

① 教員



② 保護者



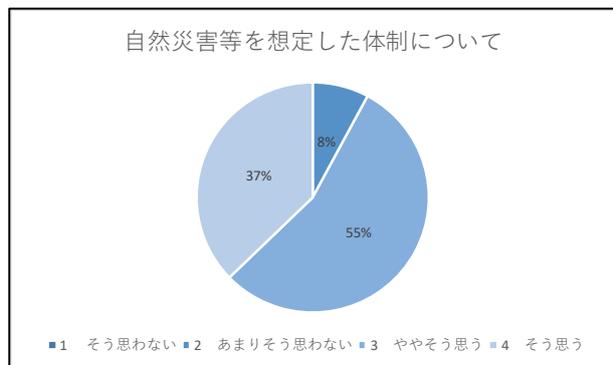
＜分析＞

現校舎は、建物の老朽化や児童生徒数及び教職員数が年々増えているため手狭となり、教育活動を充実させるためには様々な難しさがある。しかし、このような環境下において教職員は様々な工夫を凝らしながら教育活動を実施している。来年度は、新校舎に移転し校舎が広くなり、設備等が充実するため、児童生徒の学びの動線を確認しながら安心・安全に配慮した環境整備に取り組んでいきたい。

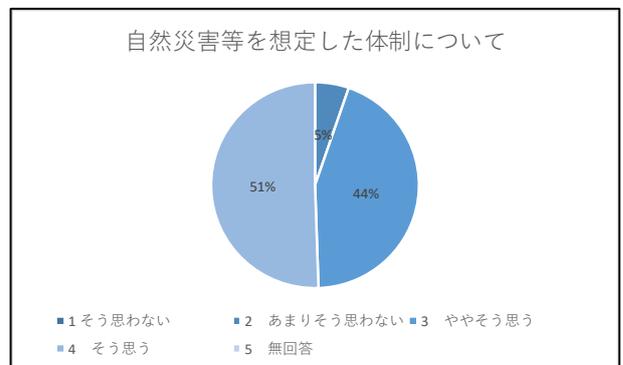
(2) 自然災害等を想定した体制について

- ① 教員：様々な事態（自然災害等）を想定した体制の中、危機管理マニュアルを整備し、指導支援に努めていますか。
- ② 保護者：学校は、様々な事態（自然災害等）を想定した体制の中、危機管理マニュアルを整備し、必要な情報提供に努めていますか。

① 教員



② 保護者



＜分析＞

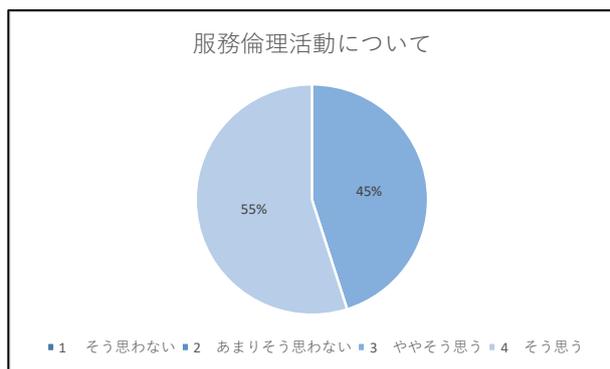
教員や保護者とも概ね、3、4と評価をする割合が高かったが、2と回答している教員からは、自由記述で、連絡体制やマニュアルの見直しを求める記述もあった。今年度は、台風19号等による大雨の被害があった。児童生徒や教職員においても床下、床上浸水など被害を受けている。緊急連絡網

や一斉メール配信システム（マチコミ）などを活用しながら、情報収集や情報提供を行ってきた。防災委員会、教務部、生徒指導部と連携を図りながら緊急連絡網や一斉メールシステム配信の活用についての改善を図りたい。また、危機管理緊急マニュアルについても、大雨を想定したマニュアルの見直しを行っていききたい。

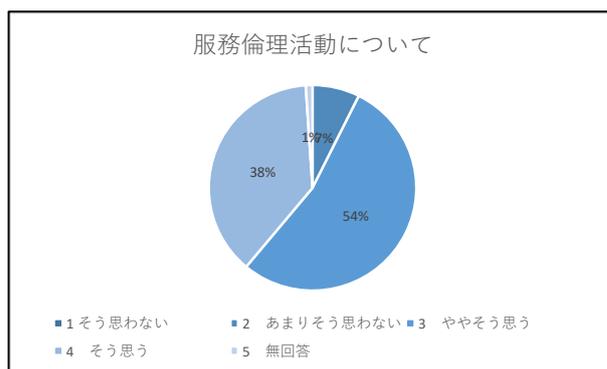
(3) 服務倫理活動について

- ① 教員：高い倫理観をもって、服務倫理委員会に参加し、服務倫理活動を充実させていますか。
- ② 保護者：学校は、高い倫理観をもって、服務倫理委員会を活発に実施し、教職員の服務倫理活動を促進していますか。

① 教員



② 保護者



<分析>

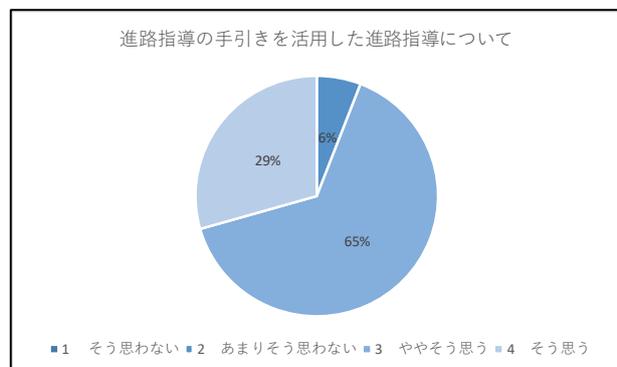
今年度は県内では逮捕事案を含め新聞報道された教職員の不祥事が多かった。県内、県外で起こった教職員の不祥事に関しての新聞記事の閲覧や、毎月の職員会議後に服務倫理に関する情報提供や注意喚起を行う等、昨年度よりも多くの時間を服務倫理活動に費やしている。そのため、教員については全員3、4を評価としている。保護者については、2と評価した方が9%程合っている。今年度は学校通信を発行し、服務倫理委員会全体研修会の取組等を掲載したが、保護者に十分に理解されていないのではないかと考えている。より一層広報活動を充実させ、保護者からのご理解を得ていきたいと考える。

4 進路指導の充実

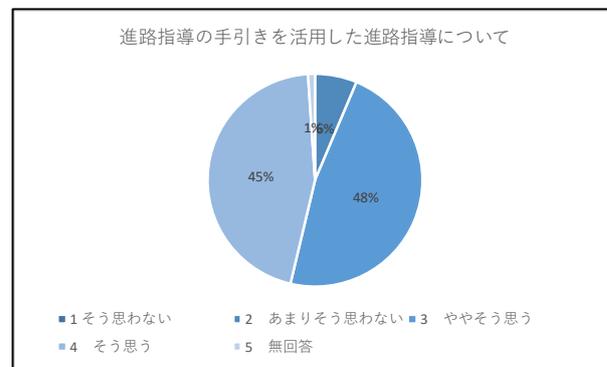
(1) 「進路の手引き」を活用した進路指導について

- ① 教員：「進路の手引き」を活用した進路指導を計画的、継続的に実施していますか。
- ② 保護者：学校は、「進路の手引き」を活用した進路相談を行っていますか。

① 教員



② 保護者



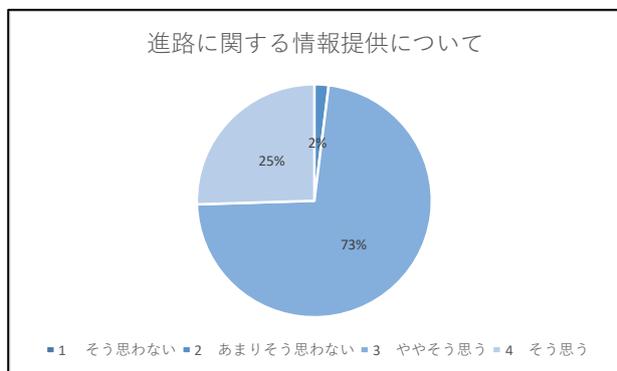
＜分析＞

教員と保護者で評価のばらつきが見られる。教員の中には、「進路の手引きを活用した進路指導が十分ではなかった」という記述も見られた。また、保護者からも、「今後とも丁寧な進路指導の継続をお願いします。」との記述が見られ、進路指導への期待が感じられた。「進路の手引き」は、今年度発行し、本校の教職員と保護者全員に配布をした。小学部からの一貫したキャリア教育を実現できるように、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成に伴う個別懇談の内容に進路相談を取り入れる等、積極的な活用を考えていきたい。また、保護者にも「進路の手引き」の内容についての紹介などを行ってきたい。

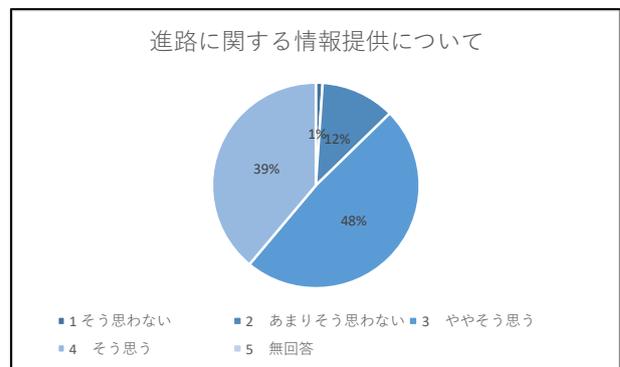
(2) 進路に関する情報提供について

- ① 教員：進路に関する様々な情報を収集し、保護者、本人への情報を提供していますか。
- ② 保護者：学校は、進路に関する様々な情報を収集し、保護者、本人への情報提供を行っていますか。

① 教員



② 保護者



＜分析＞

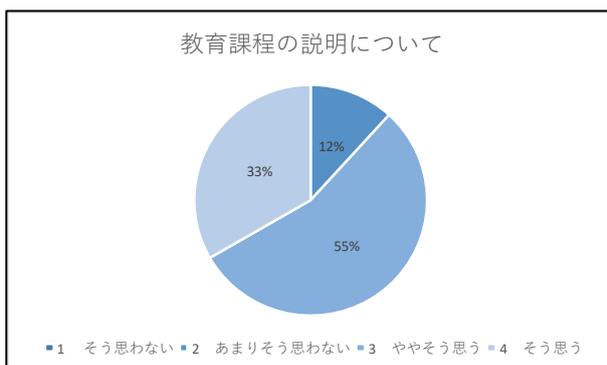
教員、保護者とで評価についてのばらつきが見られる。教員は3、4と評価をした教員が90%を超えているが、保護者は、2と評価している方が19%を占めている。この傾向については、進路に関する情報提供については、教員と保護者に認識に違いがあるのではないかと推測する。学校としては、本人保護者のニーズに進路に関する意識を十分にアセスメントした上で、的確な情報をわかりやすく提供していきたいと考える。

5 学習指導の充実

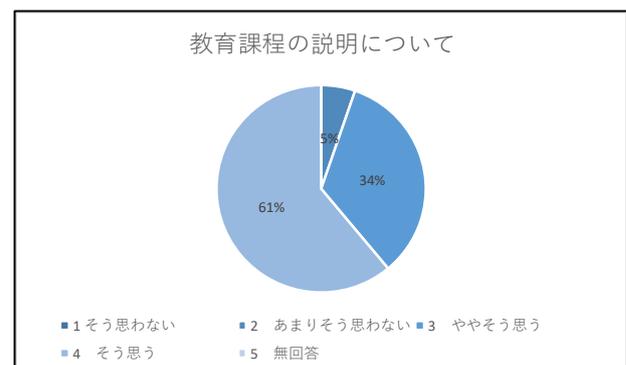
(1) 教育課程の説明

- ① 教員：保護者に対して履修している教育課程についての説明を行っていますか。
- ② 保護者：学校や担任は、保護者にお子さんが履修している教育課程についての説明を行っていますか。

① 教員



② 保護者



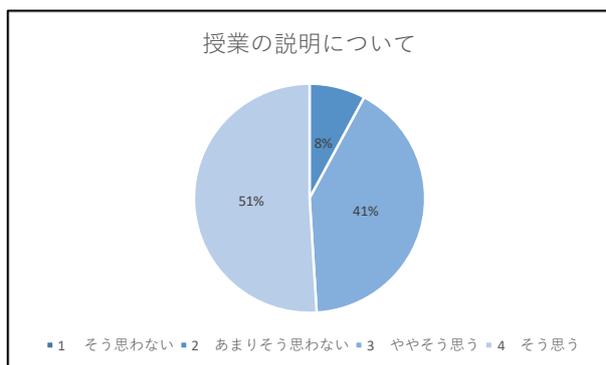
<分析>

教員や保護者とも3、4と評価している割合が85%を超えていて、一定の評価を得ている。しかし、中学部や高等部の教員からは、本校の教育課程の十分な説明が必要との記述が複数見られた。特に「作業学習」や「産業現場等における実習」の指導目標や指導内容について、社会参加や自立につながる学習なので、保護者からの十分な理解が得られるように今後とも丁寧に行っていききたい。

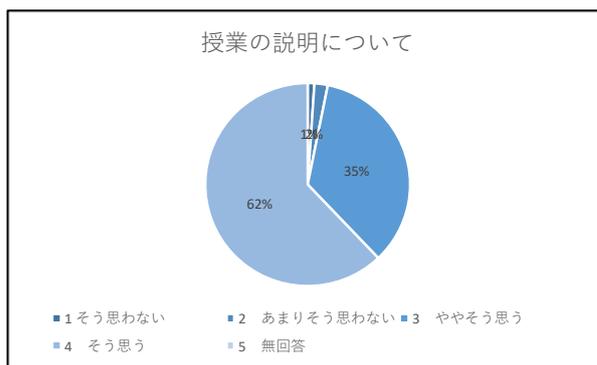
(2) 授業の説明について

- ① 教員：個別の指導計画、通知表、授業参観ガイド等を通して、保護者や本人に授業の目標、指導内容の説明や評価を十分伝えることができましたか。
- ② 保護者：学校や教職員は、個別の指導計画、通知表、授業参観ガイド等でお子さんが受けている授業の目標、指導内容の説明や評価を十分に行っていますか。

① 教員



② 保護者



<分析>

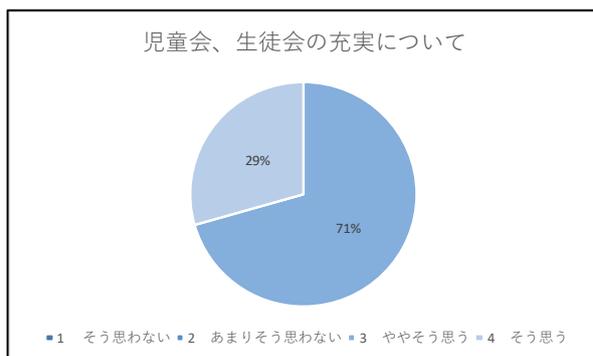
教員、保護者とも85%以上から3、4の評価を得ている。教員の自由記述からは、新しい試みとなった授業参観ガイドや通知表についての負担感に関する記述も見られたが、保護者の自由記述欄からは、「学校での取組や自分の子ども以外の授業の内容や指導目標がわかってよかった。」「子どもが変容している理由（学校での授業との関係）がわかった。」等の記載が見られ、学校の新しい取組については、一定の評価を得たのではないかと考える。来年度は新しい教育課程のもとで教育活動を進めていくため、保護者への説明を十分に行っていききたい。

6 生徒指導の充実

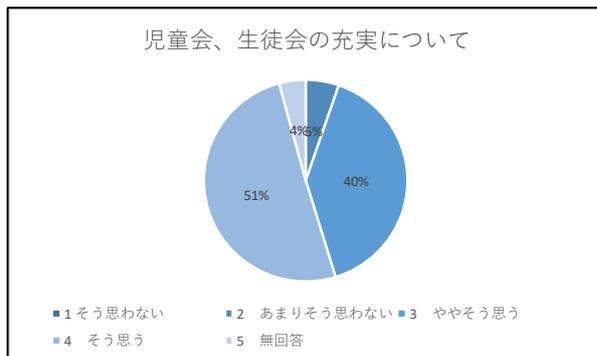
(1) 児童会、生徒会の充実について

- ① 教員：児童会・生徒会活動を充実させ、児童生徒の自主性や規範意識の育成に努めていますか。
- ② 保護者：学校は、児童会・生徒会活動を充実させ、児童生徒の自主性や規範意識の育成に努めていますか。

① 教員



② 保護者



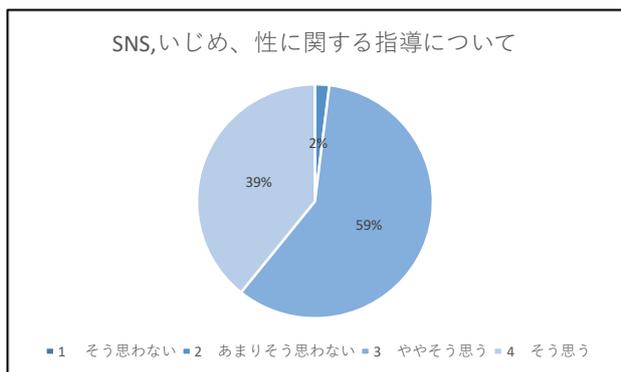
<分析>

児童会、生徒会については、今年度は校務分掌としては生徒指導部の中に担当教員を配置した。児童会生徒会では、児童生徒の主体的活動や規範意識の育成を目指している。教員や保護者とも3、4の評価の割合が高かったが、教員の自由記述では、児童生徒の実態にあった充実した児童会生徒会活動を期待している記述も見られた。今後とも、社会参加・自立を念頭においた児童会・生徒会活動を考えていきたい。

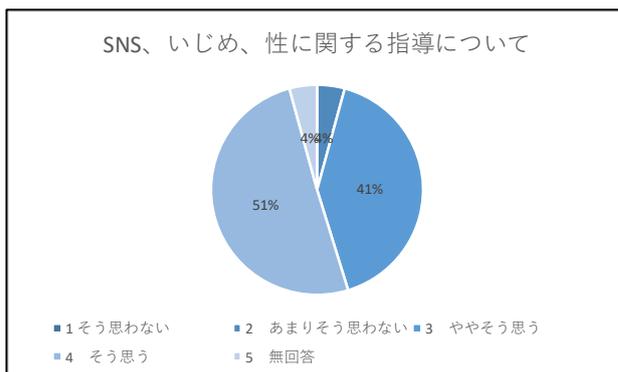
(2) SNS、いじめ、性に関する指導について

- ① 教員：SNS、いじめ、性に関するトラブル等に丁寧に指導支援をしていますか。
- ② 保護者：学校は、SNS、いじめ、性に関するトラブル等に丁寧に指導支援をしていますか。

① 教員



② 保護者



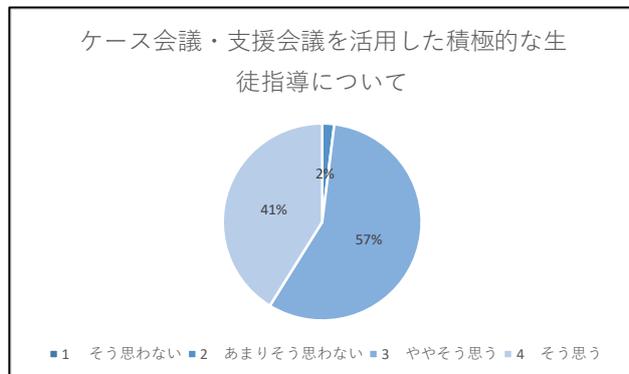
<分析>

教員、保護者とも90%以上が3、4の評価であり、一定の評価を得ている。本校においては、SNSに関するトラブルは小さな案件が多く見られる。高等部では、HRや学部集会等でSNSやメールのトラブルについての注意喚起や使用上の注意についてロールプレイやグループディスカッション等の活動を取り上げた授業を行っている。今後とも、事件事故の未然防止の観点からも、丁寧にしていきたい。また、いじめについても、校内の支援体制をより強化していきたい。

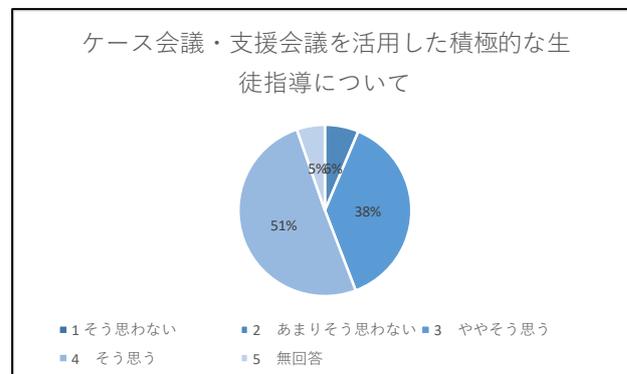
(3) ケース会議、支援会議を活用した積極的な生徒指導について

- ① 教員：ケース会議（校内）や支援会議（関係機関を交えた）等を積極的に実施し、問題行動の未然防止に組織的に対応していますか。
- ② 保護者：学校は、ケース会議（校内）や支援会議（関係機関を交えた）等を積極的に実施し、問題行動の未然防止に組織的に対応していますか。

① 教員



② 保護者



<分析>

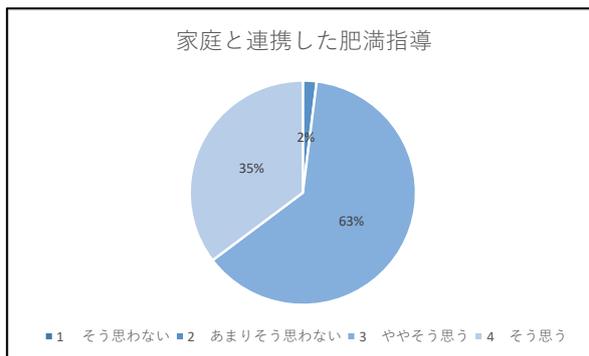
教員、保護者とも85%の方から3、4の評価を得ている。しかし、保護者の数名程度は、2と評価をしていた。ケース会議や支援会議の数は昨年度よりも増えており、その中で話し合われている内容については、関係者間で共通理解を深め、児童生徒の問題行動の未然防止につながっていると考えている。保護者の方々への周知については、プライバシーに配慮しながら、ケース会議や支援会議の成果について周知していきたいと考える。

7 健康教育の充実

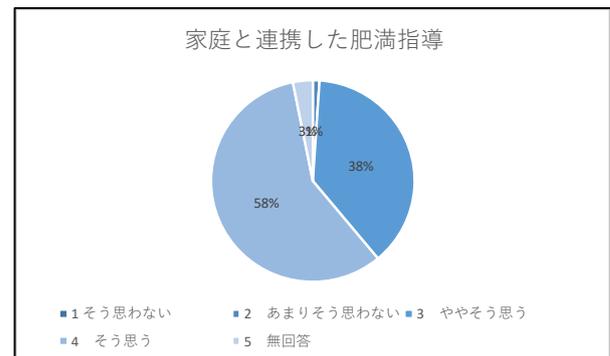
(1) 家庭と連携した肥満指導

- ① 教員：家庭と連携して継続的な肥満指導、運動週間や食習慣の改善に努めていますか。
- ② 保護者：学校は家庭と連携して継続的な肥満指導、運動週間や食習慣の改善に努めていますか。

① 教員



② 保護者



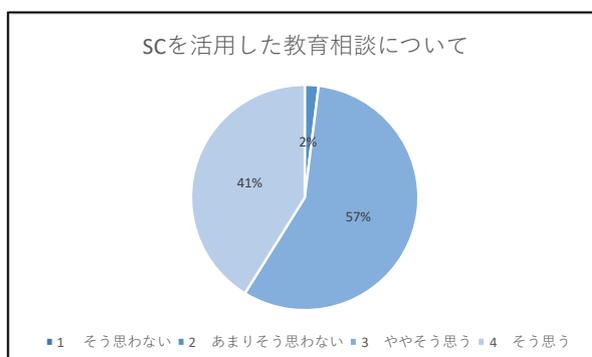
<分析>

家庭と連携した肥満指導については、教員、保護者とも概ね3、4の評価を得ている。自由記述では教員や保護者からも、「保健室から家庭に毎月配布されていて養護教諭からのメッセージも添えられている「からだの記録」についての取組を継続してほしい」との記述が複数あった。本人や保護者への理解啓発につながっていることから、今後とも継続していきたい。

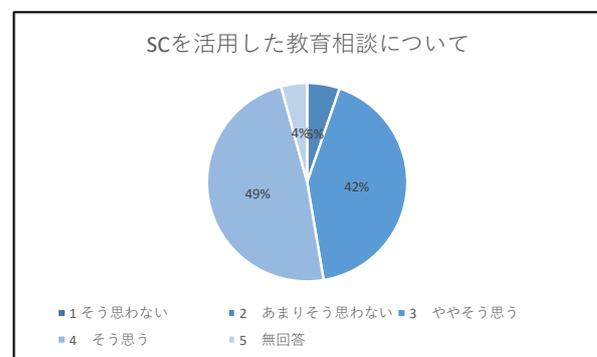
(2) SCを活用した教育相談について

- ① 教員：スクールカウンセラー等を活用した教育相談体制を充実させ、心と体の健康づくりに努めていますか。
- ② 保護者：学校は、スクールカウンセラー等を活用した教育相談体制を充実させ、心と体の健康づくりに努めていますか。

① 教員



② 保護者



<分析>

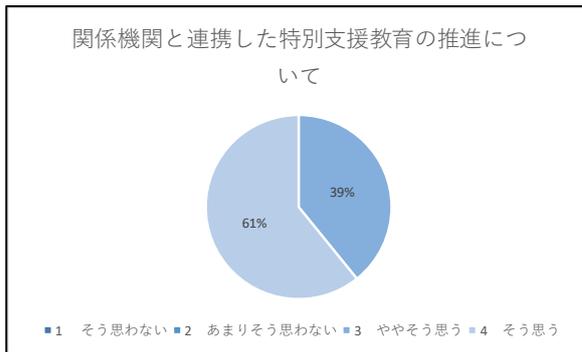
スクールカウンセラーの教育相談については、児童生徒や保護者のカウンセリングや教職員へのコンサルテーションも行っている。心理学的な見知からのアドバイスが、本校の指導支援に大変効果的に働いていると考えている。アンケートの結果についても、教員、保護者とも評価は90%以上が3、4の評価をしている。

8 地域支援の充実

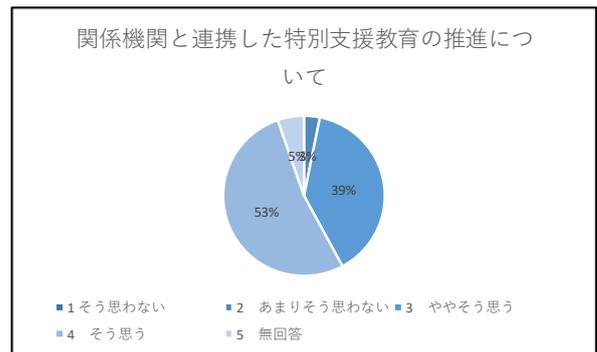
(1) 関係機関と連携した特別支援教育の推進について

- 教員、保護者：学校は、「親子学級」で教育、福祉、医療、行政の関係機関と連携し、地域の特別な支援を必要とする児童生徒への指導支援をしていますか。

① 教員



② 保護者



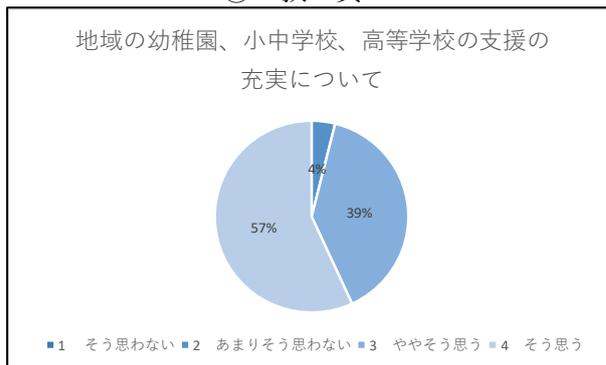
<分析>

教員、保護者とも3、4の評価が90%を占めている。地域支援センターでは、定期的に「しせいだより」も発行しており、校内の教員や保護者にも特別支援教育に関する情報提供に努めてきた。成果が出ているのではないかと推測する。今後とも学校組織として、関係機関との連携を密にしていきたい。

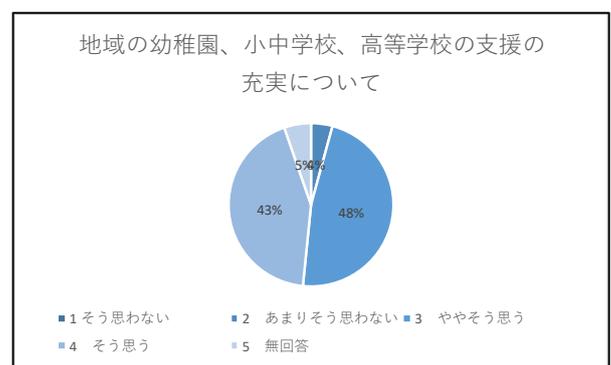
(2) 地域の幼稚園、小中学校、高等学校の支援の充実について

- 教員、保護者：学校は、研修会やセミナーを実施し、地域の幼稚園、小中学校、高等学校における指導支援の充実に努めていますか。

① 教員



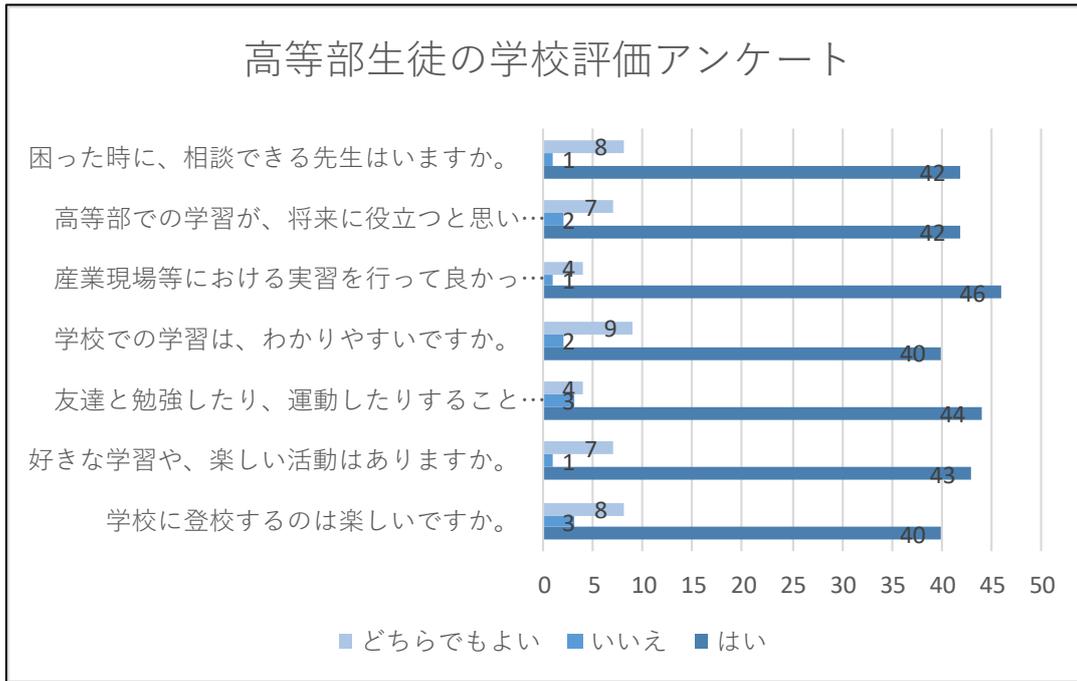
② 保護者



<分析>

教員、保護者とも90%以上から3、4の評価を得ている。教育事務所や市町村教育委員会と連携しながら支援を進めてきた。幼稚園、小中学校、高等学校の教職員が支援を必要とする児童生徒の指導支援について理解を深め、地域の特別な支援を必要とする児童生徒への支援が充実するようにしていきたい。

9 高等部の生徒の学校評価アンケートの集計結果



<分析>

ほとんどの生徒が「はい」で回答している。充実した学校生活を送っている様子がうかがえる。しかし、昨年度と比べると「どちらでもない」と回答する生徒の数が増えている。特に、学習面についての質問や進路に関係する項目については顕著である。学年別に見ると1学年や2学年で「どちらでもない」「いいえ」の割合が高い。3学年については、ほとんどが「はい」と回答していて、目的意識を持って学校生活を過ごしていることがうかがえる。一方、1学年や2学年については、学校生活での目的意識の低さが見られ、同時に分かりやすい学びを求めているのではないかと推測する。自由記述では、「難しい勉強に挑戦したい」「社会や理科の学習がしたい」等指導内容に踏み込んだ記述も見られた。高等部の教育課程を見直し、履修すべき指導内容を明確にしながら、生徒の学びの履歴を踏まえ、学習指導の充実が求められている。また、進路指導や生徒指導を充実させ、目的意識を持った学校生活を送れるような指導支援の充実も必要である。

また、自由記述では、「恋愛の見本表をつくってほしい」「LINEの使い方の見本がほしい」等公共のマナーや性に関すること等一般的に可視化が難しいものについての詳しい解説や視覚支援を求めている記述があった。生徒の特性に応じて、生徒の理解を助けるツールや支援についての検討をしていきたい。

10 全体を通して

今年度は、「授業参観ガイド」や学期ごとの「通知票」を作成・配布し、保護者や本人に対して授業のねらいや評価を分かりやすく伝えることを試みた。これは、学校が説明責任を果たし、児童生徒の学びやすさを追求していこうという思いからである。特別支援教育で使われている言葉は、ややもすると専門用語が多くなり、教員以外の人が入ると難解なイメージを持ったり、小中学校や高等学校とのカリキュラムの違いに疑問を感じたりすることが多く、説明は必要と考える。今回の学校評価でも、生徒本人や保護者の一部からは、さらにわかりやすい説明を求めている様子がうかがえた。今後も、こうした丁寧な説明の取組を継続していきたい。

また、今年度学習指導要領の改訂に伴って、教育課程の抜本的に見直しをしてきた。4月当初から学校内の教員で「新しいカリキュラムを創造するプロジェクトチーム」を編成し、協議を重ね答申としてまとめ、教育課程の編成では答申の内容を踏まえた議論を重ねてきた。教員の自由記述の中にこうした変革の動きについて戸惑いの記述も見られたことから、教職員への丁寧な説明も必要と感じた。来年度は、南相馬市鹿島区へ移転し、新しい地域でスタートとなる。校舎とともに、内容の充実した教育活動が展開できるように今後とも努力していきたい。